

事例 1

表現に着目して「ナイン」を読み深める

1 育成を目指す言語能力

本単元は、文学的な文章を読んで、人物、情景、心情などを表現に即して的確にとらえる能力を育成するために計画したものである。学習指導要領の「現代文」の指導事項「イ 文学的な文章について、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わうこと。」を指導の中心に取り上げ、「文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み取っている。」という評価規準を中心にして評価する。言語活動例の「イ 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合うこと。」を参考に、グループでの話し合い活動を通して、冒頭で述べた能力を育成する。

この実践は、初発の感想や疑問などをワークシートに反映させて学習活動に取り入れたり、「読書へのアニメーション」の手法を取り入れたりすることで、生徒の主体的な学習活動を促し、表現を味わうとともに、作品を通して自分なりの考えを深める学習活動を展開したものである。

2 学習活動の概要

(1) 単元名 小説「ナイン」(井上ひさし)

(2) 単元の目標

- ① 叙述に即して内容を的確に読み取ったり、表現に即して読み味わったりする態度を身に付ける。
(関心・意欲・態度)
- ② 人物、情景、心情などを、地の文や会話文の表現に即して読み取る。
(読む能力)
- ③ 文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解する。
(知識・理解)

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
① 文章を読んで、叙述に即して内容を的確に読み取ったり、表現に即して読み味わったりして、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりしようとしている。	① 文章に描かれた人物、情景、心情などを、地の文や会話文の表現に即して的確に読み取っている。	① 文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。

(4) 指導と評価の計画 (5 時間)

時間	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1	<p>初読の感想や疑問点等を整理する</p> <p>(1) 本文を読んで、「重要だと思ったところ」「興味深くおもしろいと思ったところ」「疑問に思ったところ」のそれぞれに、線の種類を分けて傍線を引く。ワークシート 資料 1 に傍線を引いた箇所を書き出す。</p>	<p>○各項目一つ以上を挙げさせる。</p>	<p>読む能力①</p> <p>(ワークシート 資料 4 への記述の確認)</p>
2	<p>言語事項を理解する</p> <p>(1) 言語事項 (慣用表現、比喩、漢字等) を理解する。(ワークシート 資料 2)</p>	<p>○本文中のどの場面に出てくる語句か注意させ、文脈に即して理解させる。</p>	<p>知識・理解①</p> <p>(ワークシート 資料 2 への記述の確認)</p>
3 5	<p>表現に着目して読み深める</p> <p>(1) 隣席同士でペアになる。</p> <p>(2) 配付された「言葉カード」 資料 3 を開き、カードに書かれた言葉やフレーズが、本文中のどの場面の、どのような状況を表しているのかをグループで話し合い、グループ発表用紙 資料 4 に記入する。</p> <p>(3) グループ毎に順番に前に出て、「言葉カード」を見せてその内容を説明する。</p> <p>(4) (3)の説明の後に、さらに補足説明をしたいグループは、挙手して発言する。</p> <p>(5) 「言葉カード」(拡大版) を作品の展開順に黒板に並べて張り出し、場面展開や人物の心情の変化を確認する。</p>	<p>○「言葉カード」は、生徒が予め提出した「ワークシート」 資料 1 をもとにして作る。</p> <p>○「言葉カード」は記載面を伏せて配付する。</p> <p>○自分がワークシートに書き込んだ箇所があったら、自分の印象と比べたり、疑問点が分かるようになったかを確認したりしながら読ませる。</p> <p>○ 資料 3 の「言葉」カードの拡大版を用意しておく。</p>	<p>読む能力①</p> <p>(ワークシート 資料 4 への記述の確認、発言の内容)</p>

※「関心・意欲・態度」は単元全体を通して評価する。

3 評価の例

初読の際に、三つの視点(「重要だと思ったところ」「興味深くおもしろいと思ったところ」「疑問に思ったところ」)に即して、感想や疑問点をワークシートに整理させたところ、平素は学習活動に受動的な傾向の見られる生徒も、主体的に取り組んだ。また、「読書へのアニメーション」の手法を生かした、カードを使った指導によっても、意欲的な取組が促された。

4 成果と課題

(1) 成果

本教材は、少年野球団の仲間が、大人になってそれぞれの人生を歩むとき、少年時代の思い出が「生きる糧」になっているというという要旨の作品である。高度経済成長によって人も町も生活も様変わりしたが、心の中の思い出だけは、「ナイン」の中で色あせることなく共有され生き続けている。高校生が「友情」について考えるのにふさわしい教材である。

この事例では、生徒が主体的に読み取りができるように二つの点で工夫をした。

一つは『三色ボールペンで読む日本語』（齋藤孝著 角川書店）からヒントを得て、初読時の感想等を線の種類で分けて整理させた点である。色を使わずに線の種類で項目を分けた点や、読みの視点を作品の特徴に合わせて変えて、ワークシートにも反映させた。生徒は、感想を自由に原稿用紙にまとめる活動を苦手とする傾向があるが、読みの視点を与えて、段階を踏んで箇条書きで書くように指導したところ、感想や根拠を具体的に書けるようになった。

もう一つは、『初めてのアニマシオン』（岩辺泰史＋学び探偵団アニマシオンクラブ著 柏書房）から、「ことばは語る」という作戦を応用して学習活動に取り入れた点である。本来の活動では、アニマドールと呼ばれる指導者が、作品中から特徴のあるフレーズ等を抜き出してカードに書いておくのだが、本単元では、生徒が資料1のワークシートで指摘した部分をできるだけ取り入れてカードを作った。これによって、生徒は、自分だけでなくクラスメートが指摘した特徴あるフレーズ等について読み取るようになった。「自分が興味を持ったフレーズを、他の人がどのように読み取るか」、「他のグループが述べた意見に対して、自分はどのような感想や意見をもったか」というような視点で読み深めることができた。

(2) 課題

「言葉カード」を使った学習活動の際、生徒は、初読の感想をメモした自分のワークシートを見ながら、他のグループの意見と比べることはできたが、それをメモするなどして読み深めた感想を書くことはしなかった。読みを深めさせる手立てとして、グループ発表のときに気がついたことを各自がメモできるように、ワークシートを工夫したい。

使用教科書

- ・『新現代文』大修館書店

参考文献

- ・齋藤孝著『三色ボールペンで読む日本語』角川書店
- ・岩辺泰史＋学び探偵団アニマシオンクラブ著『初めてのアニマシオン』柏書房

組 番 氏名

1 教科書 24 頁 ～ 37 頁 『サイン』 を読んで、次の ① ～ ③ に該当する部分に、それぞれ線を引いてみよう。

① 重要だと思ったところ

② 興味深くおもしろいと思ったところ

③ 疑問に思ったところ (内容、言葉の意味どちらでもよい)

傍線

波線

二重傍線

2 1 で線を引いた部分について、ページ数と行数で記し、それぞれの表現について、感想や理由を簡潔に書こう。

※ (以下、行書体の文字は・生徒の記入例)

① 重要だと思ったところ

・	36	ページ	10	行目	～	37	ページ	4	行目
感想、理由 キヤフエである正太郎の優しさがよくわかり、とてもいい場所だから。									
・	ページ	行目	～	ページ	行目				
感想、理由									

② 興味深くおもしろいと思ったところ

・	37	ページ	5	行目	～	37	ページ	8	行目
感想、理由 この十何年かのおうちに野球場の周りの風景や街の様子も変わったのだと思った。									
・	ページ	行目	～	ページ	行目				
感想、理由									

③ 疑問に思ったところ

・	35	ページ	6	行目	～	35	ページ	7	行目
感想、理由 「だからこのように嘘れ上がった」とはどのような指名のか見てみたい。									
・	ページ	行目	～	ページ	行目				
感想、理由									

漢字	読み	書き	書き	書き	意味
畳屋					
膨れる					
火鉢					
膝					
道幅					
喫茶店					
豆腐屋					
惣菜					
勾配					
宵					
白木					
自足					
監督					
暑氣中り					
御祝儀					
地所					
見初める					
脅かす					
能弁					
口上					
性根をすえる					
請け合う					
眉唾					
寸借詐欺					
ねんごろ					
隠居					
気圧される					
唸る					
金網					
遠慮					
覆う					

<p>当時の新道には生 活があつた</p>	<p>厚化粧</p>	<p>ひきかえ新道には 英夫が一人しかい なかつた</p>	<p>力の入った口調</p>	<p>針だこでたらこみ たいに膨れ上がつ た指で火鉢の横を 軽く打つた</p>
<p>こっちの胸のうち を見抜いたように 言った</p>	<p>つまりいま、やつ と三十歳でしょう</p>	<p>ばらばらになつて しまつたさ</p>	<p>一斉にわーつと泣 き出した</p>	<p>あれ、おかしいな</p>
<p>あいつは弱虫の八 番打者でねえ</p>	<p>豆腐屋の常雄もあ んな苦勞をしない ですんだのにな</p>	<p>ひと肌ぬぐ気にな つた</p>	<p>眉<small>まゆ</small>に唾<small>つば</small>をつけなが ら聞いていた</p>	<p>それにも限度つて ものがある</p>
<p>家付き娘を鼻にか けた高慢ちきな女</p>	<p>だとしたら正ちや んのおかけかな</p>	<p>それにしても新道 少年野球団は強か つたねえ</p>	<p>だから苦情は 出ないさ</p>	<p>洗濯屋はしょっち ゆうもめていたか らね</p>
<p>だから……</p>	<p>これはキャプテン 命令だぞ</p>	<p>きつと死ぬほど辛 かつたろう</p>	<p>わたしを見すえて 言った</p>	<p>結局は、僕らのた めになることをし て歩いているんだ</p>
				<p>ここには西日がさ さなくなつてしま つたようである</p>

「サイン」―「言葉カード」グループ発表用紙―

() 班

メンバー名 () () () ()

配られた「言葉カード」に書かれていたフレーズ

1 「言葉カード」に書かれたフレーズは、次のどの段落の場面のもので、○をつける。

第一段落 「わたし」は、仕事が早く終わったので中村豊店に寄って見た。(発端) (初め～24行目)

第二段落 「中村さん」が、当時の新道少年野球団の思い出を語りだす。(起) (25行目～26行目)

第三段落 高度経済成長で新道通りは変貌し、かつてのサインたちもぼろぼろになってしまった。(26行目～30行目)

第四段落 寸借詐欺を働くようになってしまった「正太郎」の変貌ぶり。(転) (30行目～33行目)

第五段落 仲間をだました「正太郎」のことを皆がかばう理由について、「英夫」が語る。(結) (33行目～37行目)

第六段落 変貌した野球場を見下ろす「わたし」。(37行目～終)

2 誰の、どのような状況や気持ちの表れたフレーズか。

の

*会話文の場合 () の () に対する言葉。

3 他の人から出た付け足しの書き。